資料１

第4回　国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会　主なご意見

■ 基本理念・目指す施設像について

【基本理念について】

・震災を経験した人もしない人も全ての人を包接していこうという重さをもった理念を立てることが必要。命にかかわる場でもあり、音楽の場でもあることをもっとわかるようにするべき。

・「命」や「生きる」ということが両施設に共通する重要な部分であり、それを担う施設だとわかるようにするべきではないか。

・現在の案は明るい未来を志向していてとても良い。ひと、文化、まちといった共通の面を持ち、ともに創造的であることがわかる。

・基本理念はシンプルなほうが良い。現在の案はこれまでの議論が端的に表現されている。基本理念が具体になると活動が縛られる。音楽に限定した活動をするわけではない。

・基本理念は広く包括的なもので良い。事業で具体化、差別化を。3.11 の重い経験に裏打ちされた未来志向であるということは、基本理念で言わずとも、そのあとを読めばわかる。

【目指す施設像について】

・1つめは「文化を通して交流する」、2つめは「都市文化を磨く」といった言い方が良いと思う。

・気軽に訪れる場所ではあるが、3.11 など特別なときには居住まいを正し、背筋を伸ばして集まる場所でもある。ピリッとした要素を入れられないか。

・「仙台を知る」だけでなく、3.11 や過去の災害や生きてきた軌跡に「思いをいたす」といった、考える、立ち止まる、という要素を込められないか。

・基本理念の副題が目指す施設像の3つにつながるのではないか。①が人と人、②が過去と未来、しかし、③が市内外からというのでは矮小化している印象がある。

・「知る」が自発的行動なら、その手前には「学ぶ」があり、「触れる」ということもある。いろいろな接し方があるのではないか、どういうレベルで考えるか。

■ 開館までの取組みについて

・開館までの準備期間を充実させることが重要。複合施設としてどのようなシナジー効果が出せるのか考えてほしい。

・震災メモリアル拠点だけでなく、音楽ホールも地域のNPOや文化団体との連携、アウトリーチといった先行事業を進め、地域のネットワークを作ることが大切である。

・仙台には優秀な若手の演奏家がたくさんいる。活動の場を与えられるような仕組みを作ってほしい。

・東京のアーティストとのネットワークだけではなく、地元のネットワークを作ることが重要。地元の人材を活用したアウトリーチなどの活動も育てていくことが大事。

・目的を持たなくても訪れたくなる施設であることが大事。

・リーダーの育成、情報入手やチケット購入の利便性を上げる工夫をしてほしい。国際音楽コンクールなど既存の事業に新たな施設を想定した活動を加えることも重要。

■ 整備手法について

・事業を展開するうえで、PFIは些細なことも融通がきかない状態が長期間続く懸念がある。

・PFIの利点には予算の平準化などがあるが、準備する側も提案する側も非常に膨大な作業が必要であり、大型のチームでの応募となるため、応募者が多くないのが現実である。その結果、新しい可能性に挑戦することなく手堅い提案がなされ、それを選ぶことにならざるを得ないことが懸念される。

・従来型とPFIの 2 つが対比されているが、従来手法でもDBやECIといった早期に施工者を組み込んでいく方法もあるため、どの段階から施工者が入るのかは考えてもいいのかもしれない。

・メディアテークのコンペには約 230 団体が応募し、申込み段階だと 1,000 を超える団体がいた。設計者選定自体が盛り上がりを見せることが重要。審査員の人選が大事である。

■ 運営体制・施設概要等について

・運営体制は完全一体型のほうが運営しやすいと思う。連携事業をたくさんやっていく場合、財源が分かれていると難しい。館長には両施設の経営的な部分を見てもらい、文化芸術部分の統括とメモリアル部分の統括をそれぞれに置く体制も考えられる。

・管理運営は分離・一体どちらもあり得るが、震災遺構仙台市立荒浜小学校やせんだい 3.11 メモリアル交流館などと一体的に運営することも重要である。

・それぞれの施設の責任者にできるだけ早い段階から関わってもらうことが大事。トップだけではなく、それぞれの部署の管理職級もしっかり押さえていくことが重要である。

・複合施設の一番大事な要素と思われるのが「完全に区画されたスペースではなく、連続した」という部分であるが、館長がこれらをうまく連携・機能させられるかがポイントではないか。

・「音楽による復興支援センター・東北」が、両施設の橋渡しをできる蓄積を持っている。このセンターの位置づけが明確になされることが良いのではないか。

・気軽に立ち寄りや通り抜けができることは極めて重要。青葉山の他施設に来た人や散歩に来た人も入れる、地域の一部である施設であってほしい。

・メモリアルは子どもたちの学び・研究の場となる。小中学生の頃に学び、高校生・大学生には研究をしてもらうなど、学校教育での位置づけをどうするか検討してほしい。

・「大規模な備蓄等を想定しないが、情報面での支援拠点となる」が実現できるのであれば歓迎したいが、そのために必要な人材を確保することが重要である。

・収録室は、技術革新の結果使われなくなる、という事態にならないよう配慮が必要。

・舞台技術が進歩しているが、施設の技術者は日々の業務に追われ世界の趨勢から取り残されてしまいがちである。いろいろな施設の運営や技術を学べるような仕組みを考えてほしい。